

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0471400226		
法人名	有限会社 庄司ケアサポート		
事業所名	グループホーム 日和		
所在地 (電話番号)	東松島市赤井字台94		(電 話) 0225-84-1221
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成19年7月12日		

## 【情報提供票より】(19年 6月 20日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤	人, 常勤換算 9人

## (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 平家造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	14,500 円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有( 72,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	200 円	昼食 270 円
	夕食	450 円	おやつ 50 円
	または1日当たり	970 円	

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名		要介護4	1 名		
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	82.2 歳	最低	67 歳	最高	90 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙石病院 ヤモト歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは総合病院やクリニックが集中するゾーンの一角にある。市内で薬局を経営するオーナーは、良質なケアサービスの提供について積極的な意見の持ち主で、それはケアをする職員数にも現われており、更に職員の待遇面にもふれられた。オーナーとホーム長の協働も理念にある「社会からの信頼」ということで一致している。ホームの特徴は、スタッフは入居者一人ひとりの特徴、好み、習慣のみこみ、ケアのスキルアップを心掛けている点である。それが職員の若々しさとあいまって、気持良く伝わってくる。食事は入居者の楽しみの一つだが、ホームは一日30種の食材提供を目指しバランスよく、調理師を中心として献立作りを行っている。入居者は勿論、家族からも評判が良い。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題項目は特にない。しかし職員はすべての項目についてより良くするために、前向きな姿勢でこの一年取り組んできていることは職員とのヒヤリングで汲み取れた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票の記入にあたっては、スタッフ全員でシビアに取り組んでいる。職員の自己研鑽については、国家試験関連の資格取得者のためにホームが勤務の調整、受験料の援助、ミーティング等での学習への助言など積極的に行っていてケアの質向上にもつながっている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1度開催され、議事録もとり、公表もしている。ホームの恒例行事であるバスによる小旅行や日常のドライブ、外出等が、ガソリン代の高騰で実施困難になりかかった折、この会の助言で継続出来たなど、具体的な効用がある。メンバー構成は家族の他、町内会長、民生委員、行政関係者で、ホームの行事の他日常的にホームと地域とのつながりを強める役割を果たしている。地域の介護講座の講師派遣等に関して市の担当者と連携している。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者家族の面会の頻度は平均2週に1回、少ない人でも2か月に1回である。その他にかかりつけ医の通院の際は、面会の機会として捉え家族に来てもらっている。職員も同行し、病状や診断結果を家族と共有している。面会の時は本人の暮らしぶりの報告や金銭面での確認をもらっている。相談、苦情の要望は家族の関心が深い証拠と捉え、喜んで受けとめている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、日常のごみ出しや大掃除への参加で馴染みの関係となっている。食材の買出しは必ず入居者と一緒に行くなど、馴染みの関係作りに積極的であり、入居者はお話をしたり、お土産をもらったりするので楽しみにしている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本的理念として「社会的存在価値を認識し、常に社会から信頼をいただけるよう努力してまいります」と記載されている。また誰からも分かりやすい言葉にして、①優しさ②気配り③思いやりと凝縮して、事務所や玄関に掲示してある。会報にも表示し家族や地域への周知にも努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングではいつも理念を全員で唱和し、理念に反するケアをした時は、倍の優しさでフォローするようスタッフ全員で努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内会に加入している。食材は利用者と一緒に馴染みの商店で購入し、利用者は店の方と会話しお土産をいただいたりするのを楽しみにしている。近隣の人が野菜を持って来てくれたり、時にホームからお裾分けしたりもしている。地域の生きがい対策の教室にも参加し、地域住民と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員でシビアに自己評価して、ケアの見直しに努めている。外部評価の期待事項はスタッフで話し合い改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎日実施しているドライブ外出や、年3回のバスによる遠隔地への小旅行について、ガソリン代の高騰のために実施困難な状況になったが、運営推進会議での審議で家族からの強い要望もあり、引き続き実施可能になったことなど、具体的な効果が出ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	東松島市直営の地域包括支援センター所長は、ホームの運営推進会議のメンバーであり、行政としても相談にのってくれている。地域の介護講座の講師をホームから派遣して、認知症の個別ケアの必要性を周知するなど、地域の介護力アップに貢献していくとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の近隣の家族は月2回位、遠隔地の家族でも2か月に1回位はホームに面会に来るので、その都度日頃の暮らしぶりや健康状態を報告し、金銭出納簿を見てもらい確認の上捺印を貰っている。本人の居室に宿泊していく家族もいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望等は歓迎で、それだけ関心が深い証拠だと喜んで受けとめている。相談ノートに記載すると共に、外泊や通院介助、下着等に関する要望が多く直ぐに対応、実施している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	経営者は異動の弊害について理解があり、全員が常勤である。設立当初からのスタッフが多く職員は定着し、連携もよく何でも話し合いの上取り決めている。利用者は家族同様に何でも遠慮なく話している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者はスタッフのいいところは褒めて伸ばすようにしており、何でも話し合える職場の雰囲気である。又若い職員が比較的多いので、国家試験の介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得を奨め、勤務の調整や受験料等の資金援助、ミーティング等での学習なども行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	懇意にしているグループホームとは相互に訪問して、良いところを直ぐに取り入れケアの向上に努めている。更に地域のホーム相互の交流、職員の相互研修などを実現するため具体的な組織化が必要と思われる。	○	東松島市では市内にある5グループホームの連絡協議会の立ち上げを検討している。情報交換や職員の相互研修、緊急時への対応などに役立つよう、早期結成を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅を訪問して生活状況を観察した後、ホームに来てもらい一緒にゲームなど繰り返し参加してもらう。その後家族と共にホームに4泊してもらっている。第2段階として7日間家族には勤め帰りに立ち寄ってもらい、ホームに馴染んだところで入居してもらうなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム長の孫のお祝いに毎日布団針に自ら糸を通し、雑巾を縫ってプレゼントした入居者がいる。孫の顔を見て名前を覚えて、感情から入ると名前を忘れないとスタッフは驚いている。また、入居者から「畑で獲れたじゃがいもは、南京袋に入れたほうがいい」と教えられ実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族の思いや要望は申し送りノートを活用し、スタッフで共有し話し合って把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意見や要望などは、介護計画に織り込み、本人はもとより家族の同意も得ている。なにごとともスタッフで話し合い課題を全員が共有し対応している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者一人ひとりの介護計画の目標と日々の現状とのつき合わせがひと目で分かるように記録され、それがモニタリングにつながっている。介護計画は定期的な見直しに加え、状況の変化に対応した随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護相談で必要があれば、ケアマネージャーなどを紹介し対応している。健康診断で受診する時は、看護師のホーム長が同行し支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診については、原則として家族と入居者の接する大事な機会として捉え、家族に同行してもらっているが、車での送迎は職員が支援して行っている。その際医師の診断や入居者の状態については家族にきちんと伝え、情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議で議題としてとりあげ、ホームとして重度化や終末期ケアについての方針確立に努めている。更に家族、医師、看護師(ホーム長は看護師である)で方針をたてる必要があり、往診の医師に打診をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入室に際しては同意を得た後でも、本人の了解を再度得て、入室している。排泄リズムを参考にしてさりげなく前誘導し、羞恥心への配慮も行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日その日やりたいことを聞き、本人のペースで菜園作りやぬり絵、カラオケ、パズル等を楽しむための支援をしている。また雑巾作りに励む人等、興味のあることをおもしろいに行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園の新鮮な野菜を摘み、下ごしらえを入居者と一緒に行っている。畑の収穫を楽しみ、調理の仕方を教えてもらうこともある。料理は新鮮で美味しく、食べ残す人がいない。マイ箸で馴染みの茶碗で、賑やかに話合って食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行って清潔を保持している。中には朝湯や1時間もかけ、ゆっくりひとりでお風呂を楽しむ入居者もいるが、一人ひとりの好みを把握して支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味などを活かした食事作りや後片付けはもちろん、雑巾縫い、紙細工、カラオケ、菜園作りなど、本人の興味や特技などを活かして、その日やりたいことを楽しみながら行ってもらよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日午後1時間位入居者の要望でドライブを行っている。散歩や買い物をはじめ、馴染みの美容院行きの支援も行い、年3回は日帰り旅行もしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないでいる時、区長より「防犯上夜間は鍵をかけるように」と忠告を受け、夕方には施錠するようにしている。利用者の外出については近所の人もさりげなく見守ってくれており、連絡してもらったこともある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回夜間を想定し避難訓練をしている。また地域の防災訓練にも参加し、担架の竹をもらい、ホームで活用できるようにしている。緊急の際、地域の区長や民生児童委員等に電話すれば対応してくれ、近隣に住むホーム長等スタッフは駆けつけることになっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30種の食材をバランスよく、調理師を中心にして、食べ残す人がいないように食事に気を使っている。入居者は勿論、家族からも食事が美味しいと好評である。栄養バランスについて栄養士のチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関などに鮮やかな花が飾られ、ホールには絵や手作りの七夕が飾られ、季節感と共に家庭的な雰囲気が感じられる。吹き抜けには天窓があり、自然の採光が取り入れられ、食堂には音楽が流れほっと和らげるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に箆笥など使い慣れた馴染みの家具や仏壇、神さまなどを持ち込み、毎日お参りしている人もいる。入居者手作りの紙細工などを飾り付け、居心地良く配慮されている。		